

2011年 10/9 日 13:30~17:30(開場13:00) 会場/富山国際会議場メインホール(富山市大手町1-2)

シンポジウム

# 「福島」

# から

# 日本が見える

「原発事故が教えるもの」

元京都大学原子炉実験所助教授

**海老澤 徹**さん

13:35~「安全な原発はあるのか」

講師

作家

**広瀬 隆**さん

14:45~「福島原発事故の真相、広がる放射能汚染の恐怖」

<http://fukushima-hiro-ebi.seesaa.net/>

参加費:一般/1000円 学生/500円 ※高校生以下および障害者の介助者は無料 ※託児希望の方はお問い合わせください

主催:「福島」から日本を考える実行委員会 問い合わせ・連絡先:090-7083-8190(道永)

後援:北日本新聞社、読売新聞北陸支社、富山新聞社、北陸中日新聞、朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、北日本放送、チューリップテレビ

「オキナワ」～「ヒロシマ」～「ナガサキ」～「ビキニ」～「フクシマ」……  
知っていますか？ 福島の子どもたちの「いま」を。

—シンポジウム開催にあたって—

私たちが昨年、元沖縄県知事大田昌秀さんの講演会で、「沖縄」から学んだ“平和のこころ”は“命どう宝(命こそ宝)”でした。こんなに当り前で、真っ直ぐな心を、私たちは、いつ、どこに置き忘れてきたのでしょうか。私たちは、「沖縄」を自らの問題としたように、今「福島」の現実に向き合うことが必要ではないでしょうか。「福島の現実」とは、そこで“暮らし、命を繋ぐ”多くの人々が、今もなお、否応なく被曝させられ、転校せざるをえない子どもたちを生み出し、その“命とくらし”を支え育む大地や海を、広範囲に放射能で汚染し続けていることです。そして、私たちがその事実を自分のこととしては受け止めきってはいない、という現実です。こうしている今も被曝し続ける「福島の子どもたちとそこに生きる人々」に想いを馳せ、「原発事故の真実」を知ったとき、きっと、私たちの今なすべきことが見えてくるのではないかと思います。

「福島」から日本を考える実行委員会

### 海老澤 徹 (えびさわとおる)さん

1939年生まれ。元京都大学原子炉実験所助教授。専門は中性子物理学。1973年の伊方原子力発電所の行政訴訟において原告側証人として参加(主な担当分野は「加圧水型原発の工学的安全性について」)。京大原子炉実験所、日本原子力研究所等で中性子の実験的研究に従事して今日に至る。京大原子炉実験所のある大阪府熊取町の名前を取った「熊取六人衆」と呼ばれる良心的科学者の一人。著書に『中性子スピン光学』『原発の安全上欠陥』など



2011年3月11日に発生した東日本大震災。地震や津波に加え、福島第一原子力発電所の事故が、歴史的な未曾有の被害をもたらしています。

事故はなぜ起きたの？  
現状はどうなっているの？  
今後の見通しは？  
放射能とはなんなの？

原発周辺の人たちの命や健康はどうなるの？  
妊婦や子どもたちへの影響は？  
肉、野菜、魚……食べられるの？

安全な原発はあるの？  
志賀原発はどうなるの？  
富山は大丈夫なの？

私たちに問われているものは…  
私たちの未来へ、今なすべきことは…

まずは事実を知り、感じることから。

たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

### 広瀬 隆 (ひろせたかし)さん

1943年東京生まれ。早稲田大学理工学部卒業。大企業のエンジニアを経て、退社後に医療・技術関係の翻訳に従事し、その中で日本の公害と患者さんの声を海外に伝えるうち、放射能と原子力の問題に気づき、1979年のスリーマイル島原発事故から市民運動を開始。現在まで全国の住民運動・市民運動と共に活動を続ける。原子力関係の新しい著書に、2010年刊の『二酸化炭素温暖化説の崩壊』(集英社新書)、『原子炉時限爆弾 大地震におびえる日本列島』(ダイヤモンド社)、2011年刊の『福島原発メルトダウン』(朝日新書)、『原発の闇を暴く』(集英社新書)、『新エネルギーが世界を変える 原子力産業の終焉』(NHK出版)がある。



#### ■プログラム

- 13:30 / 開会挨拶
- 13:35 / 海老澤 徹さん(元京都大学原子炉実験所助教授)  
「安全な原発はあるのか」
- 14:45 / 広瀬 隆さん(作家)  
「福島原発事故の真相、広がる放射能汚染の恐怖」
- 16:30 / 質疑応答&フリートーク
- 17:30 / 閉会

